





付録 CD - ROM の内容

最長1年間使える『Panda Internet Security』体験版を収録!

付録CD-ROMには、13ページでも紹介しているセキュリティ対策ソフト『Panda Internet Security』の体験版を収録しています。体験版の利用期限は、インストール後90日間ですが、本書『カワイイ♡セキュリティ』をご購入いただいた読者の皆様に限り、ユーザー登録後に、ソフトウエアの提供元であるPS Japan 株式会社(Panda Security社の日本法人)に別途申請を行うことで、最長1年間ご利用いただけるようになります。

申請期限は、2011年10月末日です。ただし、それまでに申請ユーザー数が本書の発行部数に達した場合は、期限内に受付を終了します。

なお、インストール方法や、試用期間延長の申請方法など、ソフトウエアの利用に関する詳しい情報は、PS Japanのウェブサイトをご覧ください。





[Panda Internet Security 2011]

PS Japanの本書特設ページ

http://www.ps-japan.co.jp/kawaiisecurity/

PS Japanお問い合わせページ

http://www.ps-japan.co.jp/support/

本誌掲載イラストの壁紙画像もあります!

本誌に掲載しているセキュリティソフトやウイルスなどの擬人化イラストを、パソコン用、iPhone用の壁紙にしました。お気に入りのキャラクターを壁紙にしよう!







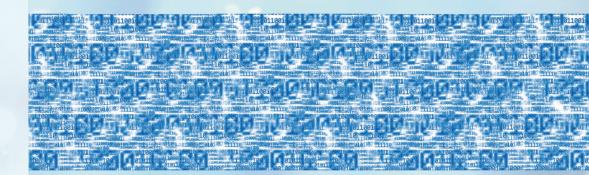


CONTENTS

付録CD-ROMの内容 ····································	2
1章 コンピューターへの脅威と対策	
コンピューターウイルスとは?	
ウイルスの目的と作者像	
ウイルスの歴史	
ウイルスと戦う、セキュリティ対策ソフトたち	
まんが『セキュリティ戦士ヒカリ』第1話 「インテルに、入ってる?」	16
2章 初期のウイルスたち	
黎明期のウイルス	22
Viruses	
◆パキスタン ブレイン	
◆ エルサレム ·····	
◆ カスケード	
♦ クリスマス ······	
♦ バロッテス ·····	
♦ コンセプト ·····	
♦ ラルー	
◆チェルノブイリ	
ヒカリのセキュリティ対策講座『アンチウイルス対策』	
まんが『セキュリティ戦士ヒカリ』第2話 「駆除しちゃうわよ!」	42
3章 自動実行型ウイルスの登場	
ファイルに感染するワームたち	48
Viruses	
◆ xリッサ ······	50
◆バブルボーイ ······	
◆ラブレター ····································	
◆マトリックス······	_
◆エフバウンド ·······	
◆クレズ ····································	
◆ソービッグ ·····	
◆ネットスカイ ····································	_
◆アンチニー······	

ヒカリのセキュリティ対策講座『迷惑メール対策』・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	. 68
まんが『セキュリティ戦士ヒカリ』第3話 「隔離するわよ!」	. 70
4章 ぜい弱性につけ込むウイルス	
システムのぜい弱性を悪用するワーム	. 76
Viruses	
◆サッドマインド・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	. 78
◆コードレッド・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	. 80
◆二ムダ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	. 82
♦ スラマー ·····	. 84
♦ ブラスター ·····	. 86
♦ サッサー ·····	. 88
ヒカリのセキュリティ対策講座『ファイアウォール』・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	. 90
まんが『セキュリティ戦士ヒカリ』第4話 「スキャンするわよ!」	. 92
5章 次々と襲いかかるウイルスたち	
次々に仕組まれるワナ ~ 脅威の複合化へ	. 98
Components	
* * * * * * * * * * * * * * * * * * * *	100
	101
◆スパイウエア	102
◆偽ソフト ····································	103
Viruses	
◆ストレーション・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	104
◆クロスオーバー	106
◆オートラン	108
◆コンフィッカー	110
♦ ガンブラー	112
ヒカリのセキュリティ対策講座『URLフィルタリング』・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	114
まんが『セキュリティ戦士ヒカリ』第5話 「バージョンアップよ!」	116
セキュリティ対策は「心がけ」から! コンピューターセキュリティ「べからず集」	123
	126

┃ 章 コンピューターへの脅威と対策



OS Girl

Security Girl

F-Secure

KINGSOFT

Panda Security

McAfee

HIKARI

コンピューターウイルスとは?

コンピューターウイルスとは、コンピューターに侵入(感染)し、悪意のある動作をする(発症)プログラムのことです。一般的に『ウイルス』という言葉の定義は「広義」「狭義」に分けられます。広義の場合、悪意のある不正プログラムのことを指し、これらを『マルウェア』と呼ぶこともあります。狭義のウイルスは「単体では実行できず、他のプログラムに寄生することで感染、自己の複製を行う不正プログラム」とされています。これに対し、「単体で実行可能であり、寄生する他のファイルを必要としない不正プログラム」を『ワーム』と呼びます。マルウェアには、ほかにも、コンピューターに潜んで情報を盗んだり他のプログラムをダウンロードしたりする不正プログラムである『トロイの木馬』なども挙げられます。

コンピューターやインターネットとともに進化してきたウイルスやワームは、メールをはじめウェブブラウザーやチャットなどの通信ソフト、USBメモリなどの外部機器、共有フォルダなど多彩な経路によって感染を拡大しようとします。

発症したときの影響は、パソコンの動作が遅くなるといった軽微なものから、パソコンが起動しなくなる、攻撃者に乗っ取られるといった重大なものまであります。なかでも、感染したパソコンを「踏み台」として大量のウイルスメールを送信するようなプログラムの場合は、ユーザーが知らないうちに「加害者」になってしまうという危険性があります。さらに最近では、クレジットカード情報を盗んで悪用したり、個人情報を「人質」にして金銭を要求するケー

スもあります。

ウイルスの標的は、パソコンだけでなく携帯電話 も狙われており、今後は情報家電やネットワーク家 電、自動車なども攻撃対象となる可能性が高いた め、常に最新の情報に耳を傾け、対策を行う必要 があると言えるでしょう。



コンピューターちゃんは、ネットワークや外部機器など、さまざまな経路から侵入者に狙われています。

広義のコンピューターウイルス

= 悪意のある不正なプログラム(マルウェア)



ウイルス(狭義)

単体では実行できず、他の プログラムに寄生すること で感染、自己の複製を行う 不正プログラム。



ワーム

単体で実行可能であり、寄 生する他のファイルを必要 としない不正プログラム。



トロイの木馬

コンピューターに潜んで、情報を盗んだり、他のプログラムをダウンロードしたりする不正プログラム。

ウイルスの目的と作者像

パソコンやユーザーに悪影響を与えるウイルスは、なぜ作成されるのでしょう。その理由は、時代とともに変化しています。1980年代に登場した初期のウイルスの発症内容をみると、画面の表示をおかしくしたり、操作できなくなるなど、感染したことをユーザーに強くアピールするものでした。これらのことから、初期のウイルス作成者もパソコンのユーザーである個人で、自分のプログラム技術をひけらかす自己顕示欲の強い人という犯人像が浮かび上がってきます。「14歳から34歳の男性でパソコン中毒者。彼女なし」という統計もあるといいます。

自動的に感染し、大量のウイルスメールを送信するようなワームが登場した1990年代後半になると、目的に変化が現れてきます。パソコンとインターネットのユーザーが増えたことや、Microsoft製品が随所で使用されるようになったことから、ウイルス作成者は「いかに効率よく大量に感染させるか」に集中するようになります。既存の不正プログラムを少し改変した『亜種』の作成も容易になってきため、ウイルスの作成者も増加しました。自己顕示欲もより強くなり、ワームのプログラムの中に別のワームの作成者を非難する言葉を入れ、作成者同士がケンカするようなこともありました。

2000年代半ばから、ウイルス作成の目的や作者像が大幅に変わりました。その理由は、ブラックマーケットの確立です。ウイルスによって入手した個人情報に値段が付き、取引されるようになったのです。元締めはマフィアとも言われ、メールアドレスやクレジットカード情報など、個人情報の種類によって相場を表示したり取引できる「裏サイト」も登場しています。

ブラックマーケットが確立したことで、金銭目的のウイルス作成が一般的になりました。特に、ユーザーに気づかれることなくパソコン内に潜り込んで乗っ取りを行う「ボット」は有効で、個人情報を盗み出すだけでなく、ボットに感染したパソコンをネットワーク化して特定の企業などのサイトに攻撃を仕掛け、攻撃を止めることと引き替えに金銭を要求するケースもあります。

さらに最近では、ウイルスの作成担当、ウイルスが 有効に動作するかどうかを検証する担当、ウイルス によって個人情報を集める担当、集めた個人情報 を販売する担当など、分業化、ビジネス化が進んで おり、今後もこの傾向は続いていくと思われます。



ウイルスの歴史

コンピューターウイルスの黎明期

今でこそウイルスはパソコンやインターネットを使用する上で大きな脅威として認知されていますが、コンピューターウイルス(以下ウイルス)はどのような進化を遂げてきたのでしょう。ここでは、ウイルスの歴史をひもといてみましょう。

ウイルスの歴史は意外に古く、パソコンやインターネットとともに進化してきたと言えます。もっとも古いウイルスは、1970年代にインターネットの前身となるARPANET上で確認された『Creep』とする説が有力です。狭義のウイルスでは、1982年に確認された『Elk Cloner』とされています。このウイルスは高校生が作成したもので、アップルの『Apple II』というコンピューターに感染し、特定の起動回数ごとに画面に詩を表示するものでした。

一般にウイルスの元祖と呼ばれ、本書でも紹介している『パキスタンブレイン』(24ページ)は、1986年に確認されています。IBM PCに感染する初のウイルスと言われますが、実際にはプログラムの不正コピーを阻止するためのメッセージを表示するものでした。

その後、1990年代半ばまではフロッピーディスクなどの外部記憶媒体から感染する「システム領域感染型ウイルス」や「ファイル感染型ウイルス」が発生しました。感染するとシステム内に潜伏し、ユーザーの何らかの操作やシステムの時計に合わせて発症するものが一般的でした。

1990年代の半ばになるとインターネットが普及し始め、同時期に発表されたMicrosoft社のWindows 95によってパソコンユーザが急増します。これに合わせて、パソコンのファイルを破壊する『Michelangelo』や、WordやExcelのマクロ(ソ

フトの操作を実行するプログラム)機能を悪用する「マクロ型ウイルス」が登場しました。この時期までは、感染そのものを目的とするウイルスが大半を占めていました。

コンピューターの発展とともに複雑化する手口

インターネットが広く普及し、企業のIT化も進んだ 1990年代の後半になると、ウイルスの感染方法も 外部記憶媒体から電子メールへと移行し、ウイルス 被害が急増し始めました。その背景にはウイルス単体でプログラムを実行する『ワーム』の登場があります。とりわけ、感染したパソコンに保存されたメール アドレスあてに自身を添付して大量送信する「マスメーリング」と呼ばれる手法が猛威をふるい、その後のウイルスの基本機能となっています。

2000年代前半には、利用ユーザーの多い Windows製品への被害がより一層拡大し、大量 感染を引き起こそうとするウイルスが続々と登場し ました。Outlookなどの、メールの添付ファイルの 内容をプレビューで確認できる機能や、Internet Explorerが表示するホームページ内にあるJavaス クリプトなどを自動実行するなどの機能を悪用する ことで、ユーザーが何もしなくても感染する手法が 広がったのもこの頃です。セキュリティホール(シス テムやソフトウェアの情報セキュリティに関するぜ い弱性)を悪用して感染させる手法も定番化し、そ のターゲットは個人用パソコンから企業が使用する サーバーにまで広がりました。

その後も攻撃のテクニックは高度になり、感染 経路もメール、ウェブページ閲覧、共有ネットワーク、 ウェブサーバー経由と複合化されたものや、複数の セキュリティホールを悪用するようなものも登場し、 大規模な感染被害が発生しました。

2000年代は脅威が多様化したことも特徴です。パソコンに感染させて不具合を起こし、同時に感染を拡大するワームのほかに、正規のプログラムを装ってパソコンに侵入し、情報を盗み出す『スパイウェア』、攻撃者からの命令を待ち受ける『トロイの木馬』、攻撃者にパソコンを乗っ取らせる『ボット』、実害はないものの、ユーザーの希望しない広告を表示する『アドウェア』などが登場しました。

社会全体に広がる深刻な脅威

2000年代後半になりウイルス作成者の目的に 金銭色が強くなると、企業やサイトを攻撃するため に極力その活動を目立たせないタイプのウイルスが トレンドになります。『ボットネット』という概念もその 流れの中で生まれてきました。また感染手法につい ても、USBメモリーの自動再生機能を悪用したもの や、正規のウェブサイトを改ざんして、閲覧したユー ザーのパソコンにウイルスをダウンロードさせる「ドラ イブ・バイ・ダウンロード攻撃」など、ますますの自動 化、狡猾化の傾向が見られます。

さらに、アクティブなユーザーが多く集まるサービスもウイルスの新たな温床として狙われるようになりました。近年、社会現象と化しているソーシャル・ネットワークサービス、Twitterなどのメッセージに使われる短縮URLを悪用し、偽のセキュリティソフトのダウンロードへと誘導し、クレジットカードなどの個人情報を盗もうとするものなど、コンピューターやインターネットの利便性の向上にあわせて続々と新技術が登場しています。

今後はパソコンに限らずスマートフォンやゲーム機などの情報家電を標的にした攻撃が予想され、ウイルスがハードの種別を超えて蔓延することが懸念されています。2010年には発電所のエネルギーシス

テムを標的にしたサイバー攻撃もあったことから、脅 威のレベルは個人だけでなく社会の中枢を支えるハ イテクインフラなど、より広範囲になってきています。

世界中のセキュリティ技術者たちは、常に新たな脅威の早期発見・対策を施すために日夜監視活動や情報収集・共有を行っています。コンピューターのユーザーとしては、自身のプライバシーを守り、他のユーザーに悪影響を与えることのないよう、安全なIT活用を行うために、セキュリティ対策には十分な関心を持っておく必要があるでしょう。



情報セキュリティ技術者たちは、安全なコンピューターの利用環境を守るため、日夜新たな脅威の早期発見と対処法の提供を行っています。

1986	~	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001		2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
ウイルスの登場		1100%	- vo > - / /																
		MSOffice 7	を狙うマクロウィンターネッ	パース トライルス トライル かんしょう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅ	ルス														
					/// 送信型のワー <i>L</i>	ムが台頭													
							セキュリティ 感染経路が	ホールの影響で											
								ウェブ改ざん											—
									_		スパイウェア、	フィッシングた	ぶどの脅威				1.2 a milit		
																USB X T U-	-からの感染 偽セキュリティ	ヘノフト	
																		エネルギーシ	ステムを
																		標的に	OHE

ウイルスと戦う、セキュリティ対策ソフトたち



不正なプログラムを作成する攻撃者がいる一方で、それらの脅威からコンピューターを守るために日々調査・研究活動を行っているセキュリティ技術者。彼らの成果は、コンピューターやインターネットの技術に反映され、我々の身近なところでは、セキュリティ対策ソフトという形で触れることができます。

刻々と進化するウイルスや不正侵入、迷惑メール、ウェブページの改ざんといった脅威からコンピューターを守るためには、セキュリティ対策ソフトの導入は必須です。ただし、過信は禁物です。特に新品パソコンに用意されているセキュリティ対策ソ

フトはウイルス対策機能だけというケースが多く、多様化する脅威に対応していないものもあります。できれば、不正な通信や侵入を検知する『ファイアウォール』機能や、迷惑メールをブロックする『アンチスパム』機能、自分が閲覧しようとするウェブページの安全性をチェックする機能など、あらゆる脅威に対応できるスイート製品を導入しましょう。また、セキュリティ対策ソフトも常に進化しているため、日頃からアップデートやバージョンアップを心がけることも大切です。ここでは、代表的なセキュリティベンダーやソフトについて紹介します。

スマホも守れる、クールビューティ - F-Secure / エフセキュア

『エフセキュア』は、北欧のフィンランド生まれ。1988年から23年にわたりITセキュリティソリューションを世界的に提供している業界の老舗です。1991年にはゼロデイ攻撃に応戦する「ヒューリスティックスキャン」を搭載したアンチウイルス製品を開発し、1994年にはWindow版をリリース。同年には日本でも営業活動を開始、1999年に日本法人を設立しました。2008年に現在の社名「エフセキュア」となり、翌年にブランドをリニューアル、スローガンの「かけがえのないものを守る」という信念を胸に今も進化を続けています。

同社は、複数のウイルス検出エンジンを搭載することで検出機能を強化、Windows、Linux、Mac向けウイルス対策ソフトや、通信事業者(ISP)経由でのアンチウイルスソリューションを早期から提供しており、モバイルセキュリティにおいては、すでに10年以上の実績を持つ同業界のパイオニアです。エフセキュアのセキュリティ研究所で主席研究員(CRO)を務めるミッコ・ヒッポネン氏は、モバイル端末に対する脅威にも詳しく、ガジェットオタクとして世界的な注目を浴びています。

オールインワン セキュリティスィートである「エフセキュア インターネット セキュリティ」は、シンプルなユーザインターフェースで、ウイルス対策、スパム対策、ルートキット対策、ファイアウォール、危険ウェブサイト警告機能、ペアレンタルコントロールなどの基本機能を搭載している、初心者にもやさしいソフトです。



エフセキュア インターネット セキュリティ 2011 価格:4,580円(3PC、1年間) http://www.f-secure.co.jp/ http://blog.f-secure.jp/





完全無料版もありますよ - KINGSOFT / キングソフト



『キングソフト』は、2005年に中国屈指のソフト ウェア開発会社「金山軟件有限公司」の日本法人 として設立されました。金山軟件有限公司の歴史 は古く、1973年にパソコンの組立や販売を行う会 社として設立されています。その後、オフィスソフト、 ワープロソフト、ゲームソフトなどを展開し、2000年 にウイルス対策ソフトの提供を開始しました。

日本では2005年に「KINGSOFT Internet Security 2006 を発売、100万本を無償配布 して話題になりました。セキュリティソフトで初めて 無償期間を設定し、終了後も1年間980円という 低価格での利用を可能にしたのです。2007年 には、広告を表示することで完全無料を実現した 「KINGSOFT Internet Security free」の提供を

開始しています。その後も、ネットカフェに無償提供 したり、OEM版やカスタムデザイン版を提供したり するなど、多彩な展開を行っています。ウイルスソフ ト評価比較機関「Anti-Virus Comparative」で世 界最高ランクを連続受賞するなど、性能面も高く評 価されています。

クラウドを活用した総合型セキュリティスイート である最新版の「KINGSOFT InternetSecurity 2011 は、ウイルス対策、フィッシング対策、ファイ アウォール、悪質サイトへのアクセスブロック、ディ スククリーンアップ、アプリケーションのぜい弱性 チェックおよび修復などの機能を搭載しており、広 告表示付きの完全無料版や、980円の1年更新 版、1980円の無期限版があります。

研究熱心な情熱家 - Panda Security / パンダセキュリティ



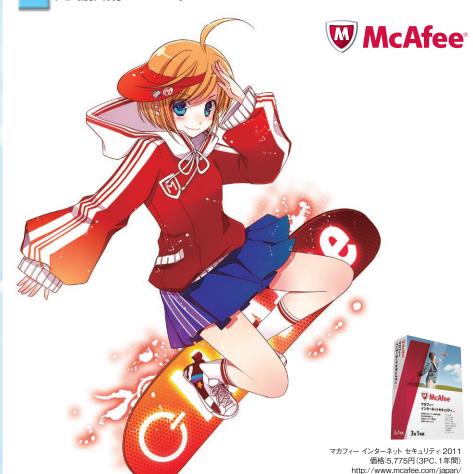
『Panda Security』は、1990年に設立されたスペ インのセキュリティ対策ベンダ。1996年にはワール ドワイドに展開し、定義ファイルの毎日の自動アッ プデートを初めて採用したほか、メールのウイルス対 策や24時間365日のサポートなど、先進の機能を いち早く製品に反映しているベンダです。

個人向けと企業向け、WindowsとMacなど、多 くのラインアップで幅広い環境に対応した製品を 提供する同社では、研究や監視にも注力してい ます。2010年には、Panda Securityやカナダの Defence Intelligence、FBI、スペイン公安当局な どによって構成された組織が、1300万台以上のパ ソコンを感染させた大規模なボットネットを発見し、

首謀者3名を逮捕しました。

総合型セキュリティスイートである「Panda Internet Security 2011」は、ウイルス対策、スパ ム対策、ファイアウォール、USBドライブの保護、安 全なネットサーフィンを可能にする「サンドボックス 機能し、個人情報保護、バックアップと復旧、ペア レンタルコントロールなどの機能を搭載するほか、 マルチメディアコンテンツやゲームへの影響を軽 減するモードが用意されています。また、クラウドトの 「Pandaコミュニティ」で収集した情報を参照して、 既知および未知のマルウェアからリアルタイムで保 護することも特徴です。

先端技術をいち早く - McAfee /マカフィー



『マカフィー』は、カリフォルニア州サンタクララに本社を置くセキュリティ企業で、1987年に「McAfee Associates」という名称で設立されました。さまざまなセキュリティ分野の企業を買収することでソリューションを充実させ、ITセキュリティの専業ベンダーとしては世界一の規模となっています。また、2010年にはインテルによる買収報道で話題になりました。日本法人は、1997年にコンピューターウイルス対策ソフトの製造・販売会社を買収、2004年からマカフィー株式会社として活動しています。

日本では特に企業向けセキュリティソリューションで 高いシェアを獲得しています。マルウェア情報をクラウド (インターネット上)のデータベースに照合してリアルタイムに対策を行う「Global Threat Intelligence」や社内のセキュリティインフラを一元管理する「McAfee ePolicy Orchestrator」、PCやメール、webを防御するSaaS型のセキュリティ製品など、先進的な技術をいち早く導入していることも同社の特徴です。

クラウド技術を活用した総合型セキュリティスイートである「マカフィー インターネット セキュリティ 2011」は、ウイルス対策、スパム対策、フィッシング対策、ファイアウォール、個人情報保護、サイトアドバイザ、ディスククリーンアップ、オンラインバックアップ、ペアレンタルコントロールなどの機能を搭載しています。

カスペルスキー

『カスペルスキー』は、1997年にロシアで設立されました。日本での活動は、2004年にカスペルスキー・ラブス・ジャパンが設立され、2006年からはジャストシステムが日本国内での販売、サポートを行っています。2010年にはイメージキャラクターにAKB48を採用し、大規模なキャンペーンを展開して注目を集めました。

個人向けと小規模企業向けセキュリティ対策ソフトを提供しており、個人向けにはWindows版とMac版が用意されています。

「Kaspersky Internet Security 2011」は、ウイルス対策、スパム対策、フィッシング対策、ファイアウォール、個人情報保護、システムウォッチャー、仮想実行、ペアレンタルコントロールなどの機能を搭載しています。

Kaspersky Internet Security 2011 価格:6,279円(3PC、1年間) http://www.kaspersky.co.jp/



シマンテック

『シマンテック』は、1982年にアメリカで設立され、1994年に日本法人が設立されました。1990年にピーター・ノートン・コンピューティング社を買収、セキュリティ対策やメンテナンスを行う「ノートン」シリーズの開発販売を開始しています。2004年にVERITAS Softwareと合併、2007年にAltiris、2008年にはVontuを買収し、2010年にはベリサイン社の証明書・セキュリティ事業部門を取得しました。これにより、セキュリティだけでなくバックアップや企業のコンプライアンス、IT管理、事業継続、仮想化など幅広い分野に展開しています。

個人向け製品の「ノートン インターネット セキュリティ 2011」は、ウイルス対策、スパム対策、フィッシング対策、ファイアウォール、個人情報保護、ノートンセーフ ウェブ、ノートン評価サービス、ぜい弱性保護、リカバリなどの機能を搭載しています。

ノートン インターネット セキュリティ 2011 価格:6,480円(3PC、1年間) http://www.symantec.com/ja/jp/



トレンドマイクロ

『トレンドマイクロ』は、1988年に台湾出身のスティーブ・チャン氏とエバ・チェン氏によりアメリカで創業されました。1991年にはセキュリティソフト『ウイルスバスター』の提供を開始し、1996年に本社を日本に移しています。

海外を含む複数の拠点に研究所を設置し、またクラウドを活用した「Smart Protection Network」を構築、新しい脅威を素早く製品にフィードバックする仕組みを確立しています。テレビCMなども積極的に展開し、現在では個人向けセキュリティ対策ソフトで国内1位のシェアを維持しています。

「ウイルスバスター 2011 クラウド」は、ウイルス対策、スパム対策、フィッシング対策、有害サイト対策、ファイアウォール、個人情報保護、データ消去ツール、リモートファイルロック、パソコン最適化などの機能を搭載しています。

ウイルスバスター 2011 クラウド 価格:6,980円(3PC、無期限) http://www.trendmicro.co.jp/



マイクロソフト

Windows OSやOffice製品の提供元として有名なマイクロソフト。同社の製品は、その普及率の高さからサイバー攻撃の標的となることも多く、2003年には、ウイルス作者の特定につながる情報提供者への報奨金制度も開始するなど、コンピューターセキュリティに関する多大な投資を行っています。

2007年には、同社の個人向けオンラインサービス 「Windows Live」を通じ、有料の統合セキュリティ ソフト「Windows Live OneCare」の提供を開始し ました。Windows Live OneCareは2009年9月に 販売を終了し、現在では無料のマルウェア対策ソフト 「Microsoft Security Essentials」が提供されています。

このソフトは、ウイルス対策のみを提供するシンプルな構成で、最低限のマルウェア対策だけを行いたい場合に適しています。

Microsoft Security Essentials 価格:無料 http://www.microsoft.com/security_essentials/













